

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要						
建物名称	(株)ダイセキ C棟新設工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
1 循環型社会への貢献	3.7 /5		ふつう			
2 地球温暖化対策の推進	3.0 /5		ふつう			
3 豊かな自然環境の確保	3.3 /5		ふつう			
4 高齢社会への対応	##### /5		#DIV/0!			
[※] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満		

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア						
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)				
1 循環型社会への貢献			スコア平均 3.8			
リサイクルに関する配慮	LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.8	長寿命化に関する配慮	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.8	
				Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 4.7	
<自由記述>			<自由記述>			
2 地球温暖化対策の推進			スコア平均 3.0			
省エネ・省資源に関する配慮	LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3	節水に関する配慮	LR2/ 1.1 節水	スコア	
<自由記述>			<自由記述>			
3 豊かな自然環境の確保			スコア平均 3.3			
生態系保全に関する配慮	Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 4	緑化に関する配慮	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3	
				LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3	
<自由記述>			<自由記述>			
4 高齢社会への対応			スコア平均 #DIV/0! 主な指標			
バリアフリーに関する配慮	Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能 (BPI評価)	非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0	
<自由記述>			建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	非住宅:BEI値、住宅: -	0.58	
			外構緑化指数		13 %	
			建物緑化指数		0 %	

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)ダイセキ C棟新設工事	階数	地上1F
建設地	北九州市若松区南二島4丁目495-	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	2人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2020年3月15日
敷地面積	46,894 m ²	作成者	村富
建築面積	2,546 m ²	確認日	2020年3月25日
延床面積	2,520 m ²	確認者	新屋敷

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.0

音環境: N.A. 熱環境: N.A. 光・視環境: 1.0 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

機能性: N.A. 耐用性: 2.9 対応性: 4.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

生物環境: 4.0 まちなみ: 3.0 地域性・地域環境: 2.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の: 5.0 自然エネ: N.A. 設備システ: N.A. 効率的: 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源: 3.0 非再生材料の: 2.8 汚染物質: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化: 3.0 地域環境: 3.5 周辺環境: 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
すでに建築されている事務所棟などの建物が一体となり、周囲の景観に配慮したエリアを形成する。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
特になし	階高H=3.9m以上確保し、壁長さ比率0.08により空間の形状・自由度を考慮した	見通しの良い環境とし、有害物質を仕上げ材に使用しない
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
照明設備に加え、自然光を取り込む設計とした	使用材料を減らすことで、分別を容易にした	光害に対し十分な対策をとる

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(株)ダイセキ C棟新設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境			0.30						1.0
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0							
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境		1.0	1.00						1.0
3.1 昼光利用		1.0	1.00						
1 昼光率		1.0	1.00						
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能			0.30						3.8
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性		2.9	0.50						2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.40						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ガルバニウム使用(耐用年数20~30年)	4.0	0.40						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	外装材現し	5.0	0.20						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									
2.4 信頼性		1.5	0.20						
1 空調・換気設備		1.0	0.25						
2 給排水・衛生設備		1.0	0.25						
3 電気設備		1.0	0.25						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.25						
5 通信・情報設備									

3 対応性・更新性			4.7	0.50	-	-	4.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.43	-	-	
1	階高のゆとり	階高 8.8m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	外周214/面積2520=0.08	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			-	-	-	-	
3.3 設備の更新性			4.5	0.57	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性	内装材無しのため	5.0	0.25	-	-	
3	電気配線の更新性	内装材無しのため	5.0	0.13	-	-	
4	通信配線の更新性	内装材無しのため	5.0	0.13	-	-	
5	設備機器の更新性	仮設スペース確保可能	4.0	0.25	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース確保可能	4.0	0.25	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.50	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.58	-	-	-	
4 効率的運用			3.5	0.50	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	設備機器が限られているので、把握・管理しやすい	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
内装材使用がないので分別が容易い							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	